

授業改善策の提案までの流れ

○本研究の基本計画

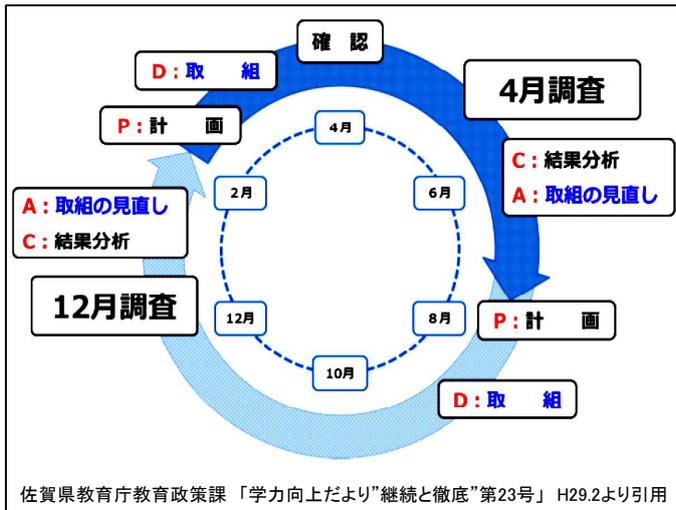


図1 【新】各学校における学力向上のPDCAサイクル

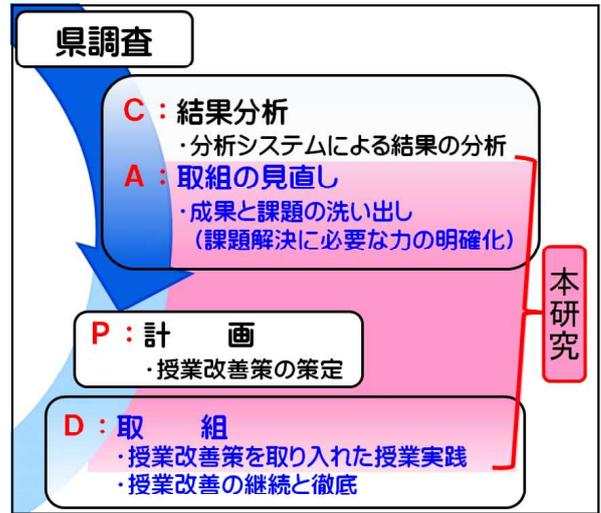


図2 学校における授業改善の流れ

佐賀県教育委員会が示す図1の「各学校における学力向上のPDCAサイクル」⁽¹⁾を確立していくために、本研究委員会では、学校における授業改善の流れとして全国調査を含む県調査の「C：結果分析」から「A：取組の見直し」、「P：計画」を経て「D：取組」、つまり、授業改善策を取り入れた授業実践までを、図2のように具体化して考えました。

図2に沿って、本研究委員会における授業改善策の提案までの流れを、図3のように整理しました。これを本研究の基本計画とし、県調査が行われる9つの教科部会を組織し研究を進めました。

ここでは、図3の流れについて概要を示します。なお、①から⑦の詳細については、表1の各教科部会のサイトを御覧ください。（各教科部会のサイト画面をクリックすると、それぞれのサイトにリンクしています。）

ただし、「① 県調査の解答分析」、「② 誤答傾向等を基にした課題の焦点化」、「③ 課題解決に必要な力の明確化」の具体的な内容については、個人や学校が特定される情報が含まれるため、本項で説明し、各教科部会のサイトでは例示するにとどめます。

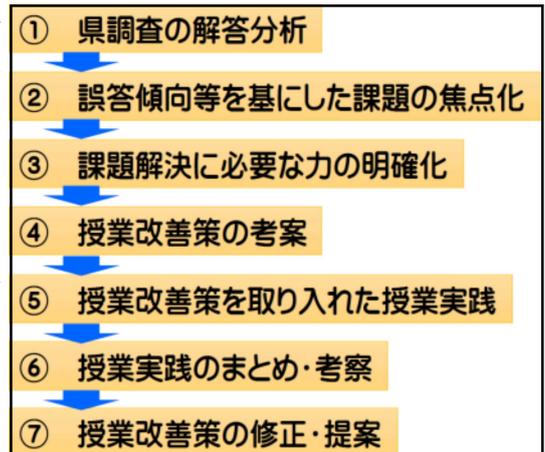


図3 本研究における授業改善策の提案までの流れ（本研究の基本計画）

表1 各教科部会のサイト一覧

	国語科	社会科	算数・数学科	理科	英語科
小学校					
中学校					

① 県調査の解答分析

1 小学校社会

① 各学年の調査結果
① 小学4年生
【表1】設問別調査結果（到達状況の「○」は「十分達成」、「▽」は「要努力」を示す。）

設問番号	設問内容	十分達成	要努力	その他	割合	達成率	
1	(1) 地図から、東京都の方位を推定することができる	○			81.2	0.3	81.5
2	(2) 法廷に法廷記者を雇っている(漫画)	○			88.5	1.0	89.5
3	(3) 法廷記者を雇っている(漫画)	○			81.7	0.3	82.0
4	(4) 法廷記者を雇っている(漫画) 条件に合わせて説明することができる	○			48.8	2.5	51.3
5	(5) 法廷記者を雇っている(漫画) スーパーマーケットの商品の工夫を推定することができる(資料1)	○			83.9	0.1	84.0
6	(6) 法廷記者を雇っている(漫画) スーパーマーケットの商品の工夫を推定することができる(資料2)	○			82.4	0.2	82.6
7	(7) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報を知ることができる(資料1)	○			88.0	0.4	88.4
8	(8) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報を知ることができる(資料2)	○			47.2	2.8	50.0
9	(9) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			74.4	0.8	75.2
10	(10) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			38.8	0.8	39.6
11	(11) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			74.4	0.5	74.9
12	(12) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			85.6	1.1	86.7
13	(13) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			82.2	2.2	84.4
14	(14) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			80.9	2.5	83.4
15	(15) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			82.6	4.8	87.4
16	(16) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			89.1	2.7	91.8
17	(17) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			82.8	2.8	85.6
18	(18) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			88.4	0.8	89.2
19	(19) 法廷記者を雇っている(漫画) 情報の取捨選択について説明することができる	○			81.4	0.3	81.7

② 調査結果の分析（○は達成、●は課題、◇は関係する設問を示す。）

① 全体の概況
○ 全ての学年において、教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。【グラフ1、グラフ2、グラフ3】
○ 小学5年生及び小学6年生の採点の観点「観察・資料活用の技能」は、「おおむね達成」の基準を上回っており、小学4年生は「十分達成」の基準を上回っている。【グラフ4、グラフ5、グラフ6、グラフ7】
● 小学5年生及び小学6年生の採点の観点「社会的な思考・判断・表現」は、「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ8、グラフ9】
● 小学5年生及び小学6年生の採点の観点「社会的な思考・判断・表現」は、「観察・資料活用の技能」については、到達基準を1として正答率を算出し同一児童で学年比較をすると、平成28年度【12月調査】より高い下回っている。小学5年生は、全ての採点の観点で下回っている。【グラフ10、グラフ11】
● 全ての学年において、社会的な思考や相互の関連、意味を考えた説明する記述式の設問については課題が見られる。【表1、表2、表3】

② 小学4年生
○ 採点の観点「社会的な思考・判断・表現」の正答率は81.5で、「十分達成」の基準81.5と等しい値である。【グラフ6】
○ 採点の観点「観察・資料活用の技能」の正答率は84.4で、「十分達成」の基準80.0を4.4ポイント上回っている。【グラフ5】
○ 内容・領域別採点率については、全ての内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回っている。中でも、「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」については、「十分達成」の基準を上回っている。【グラフ6】
○ 採点の観点「社会的な思考・判断・表現」(観察・資料活用の技能)について、到達基準を1として正答率を算出し同一学年で学年比較をすると、平成28年度【12月調査】より上回っている。【グラフ7】
● 採点の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的な思考や相互の関連」について考え、説明することを用いた設問の正答率は50.4で、「おおむね達成」の基準55.0を5.6ポイント下回っている。【表1】(4年生調査5(3))

● 課題が見られる設問について

設問番号	設問内容	正答率	到達率	十分達成	おおむね達成
4年生調査5(3)	資料を基に、地域で行っている「子供110番の家」の取り組みについて考えることができる(資料1)	50.4	3.8	75.0	55.0

○ 設問・解答の理由として考えられること
児童の経験上、「子供110番の家」や「子供110番の家」が設置されている目的については理解していると思われる。設問されている目的と資料から読み取った情報とを関連付けて説明できるように説明がなされている。

③ 改善のポイント

① 児童の主体的な学びにするような指導の工夫を行うこと
(6年生調査6(1))
・ 児童の主体的な学びにするためには、単元の学習問題や本時のめあてを児童と共に設定するような指導の工夫を行う必要がある。ポイントは、社会的な思考や相互の関連を基に、児童が主体的な学習問題や本時のめあてを設定することである。単元の学習問題や本時のめあてを自分たちで決めたという意識をもたせることで、児童が自分の問題として捉えることができ、その後の追究意欲の高まりにつながる。

② 社会的な思考や相互の関連、意味を考えた説明の工夫を行うこと
(4年生調査5(3)、5年生調査4(4)、5年生調査5(3)、5年生調査6(1)、6年生調査7(4))
・ 児童が社会的な思考や相互の関連、意味を考えた説明をするためには、「なぜ(何のために)～しているのか」「どのようにしているのか」といった「why」や「how」の思考発問をすることが大切である。その際、児童の反応に対して、以下の3つの思考(比較、関連付け、総合)を定着し「通じ」を促すことが効果的である。
ⅰ 「～よりも～」「同じところ～」「～が違う」など、いくつかの情報から分かったことを比べて考える(比較)。
ⅱ 「～だから～」「なぜかという～」「それは～」「どうして～」など、いくつかの情報をつなげて予想したり、理由を考えたたりする(関連付け)。
ⅲ 「一言で言うこと」「つまり～」「全部をまとめること」など、いくつかの情報をまとめて考える(総合)。

③ 社会的な思考について考えたことを表現し、理解を深める指導の工夫を行うこと
(5年生調査5(3)、6年生調査7(4))
・ 授業の終末に、本時のめあてについての考えを記述させることが大切である。その際、「今日の授業のキーワードを使って書きましよう」「○字以内で書きましよう」と、キーワードの使用や字数の制限など、記述する条件を明示するが効果的である。
・ 単元の「調べる」過程において、単元の学習問題について考える場面を取り入れる。「今日の授業で分かったことを基に、学習問題についての自分の考えを書きましよう」と、本時の授業で分かったことと単元の学習問題を関連付けながら自分の考えを記述させる指導が効果的である。
・ 社会的な思考について理解を深めていくためには、調べた分かったことや考えたことを交流する場面を設定することが大切である。
・ 相手に分かりやすく伝えるように指導することが大切である。「根拠を示して」「事実と意見を区別して」「立場を明確にして」書くように指導する。その際、「なぜなら」「このことが～」「～であるから」など、自分の考えを伝えることと根拠を示すこととを関連付けて説明させる指導が効果的である。

佐賀県教育委員会 「平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告」より 平成28年2月

資料1 県教育委員会が発表する「Web報告書」(小学校社会科の一部)

県調査後に、県教育委員会が発表する「Web報告書」⁽²⁾には、資料1のように、調査を行った校種、教科で解答の正誤に関する全県的な数値を基にした、授業改善の成果と課題が示されています。

まず、本研究委員会では、県教育委員会が示した課題が見られる調査問題の設問について、その解答や出題の趣旨を分析し、各教科部会が解決に向けて取り組む課題を表2のように整理しました。

表2 各教科部会が整理した県調査の結果から見える課題

校種	教科部会	教科部会が整理した県調査から見える課題	校種	教科部会	教科部会が整理した県調査から見える課題
小学校	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと 自分の考えを求められた様式に合わせて書くこと 文章の内容を的確に捉えて、要旨をまとめること 	中学校	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 要旨となる中心的な部分を読み取ること 描写の効果、登場人物の言動の意味を考え、文章に書かれた内容を理解すること 文章から自分の考えの根拠となる部分を引用すること 複数の文章や資料から目的に応じて必要な情報を取り出したり、複数の文章や資料から得た情報を関連付けて自分の考えをまとめたりすること
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、社会的な思考や相互の関連、意味(目的、特徴、働き、役割、因果関係、条件など)を考え、表現すること 社会的な思考についての基礎的な知識を身に付けること 		社会科	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取った情報を基に、社会的な思考の意味、意義を解釈したり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするなど、言語を使って考え、判断し、表現すること 社会的な思考についての基礎的・基本的な知識や概念を身に付けること
	算数科	<ul style="list-style-type: none"> 示された情報から、問題の解決に必要な情報を見いだしたり収集したり選択したりすること 問題文から数量の関係を図に表したり、図や表から数量の関係を把握したりするなど、示された情報を整理したり解釈したりすること 考えた方法や理由について言葉や数を用いて記述する際、場面の状況や問題の条件に基づいて、必要な事柄を過不足なく記述すること 		数学科	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中の数量の関係を捉えて立式すること 表、式、グラフを関連付けて理解すること 事柄が成り立つ理由を説明すること 図形の証明に関する事柄など数学的な表現を用いて記述すること
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の結果を整理し考察すること 学習したことと実際の自然や生活との関係への認識を含んで理解すること 	理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の結果を整理し分析し、解決すること 学習したことと実際の自然や生活との関係への認識を含んで理解すること 	
			英語科	<ul style="list-style-type: none"> 対話文の文脈、物語文のあらすじ及び説明文の大切な部分などを正確に読み取ること 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方を捉えること 	

② 誤答傾向等を基にした課題の焦点化

次に、本研究委員会では、前頁表2に示す課題がみられる設問について、各教科部会で県調査の解答を収集し、「Web報告書」に示されている、「課題が見られる設問について」や「誤答・無解答の原因として考えられること」、を確認し、「改善・充実に向けて」必要な指導などを踏まえて、課題解決に向けて必要な力を、表3のように設定しました。

各教科部会では、児童生徒がこれらの力を身に付けたり、高めたりするための授業改善策を探りました。

表3 各教科部会が設定した課題解決に向けて児童生徒に必要な力

校種	教科部会	課題解決に向けて児童に必要な力	校種	教科部会	課題解決に向けて生徒に必要な力
小学校	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を捉えながら読む力 書かれている内容を捉えて、求められた様式に合わせてまとめる力 文章の内容を的確に捉えて、要旨をまとめる力 	中学校	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 表現に着目して文章を読み、文章に書かれた内容を理解する力 書かれていることを根拠に自分の考えをもつ力 複数の文章や資料から得た情報を整理し、自分の考えをまとめる力
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・総合的に考える力 習得した知識を活用して社会的事象の特色や相互の関連、意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の特色や相互の関連、意味を理解する力 		社会科	<ul style="list-style-type: none"> もっている知識や調べて分かったことを活用して、社会的事象の意味、意義を多面的・多角的に考え、説明したり論述したりする力 基礎的・基本的な知識を身に付けさせながら、社会的事象の意味、意義を理解する力
	算数科	<ul style="list-style-type: none"> 示された情報から、問題の解決に必要な情報を見いだす力 問題文から数量の関係を図に表したり、図や表から分かることを読み取ったりしながら、言葉や数、式、図、表、グラフなどの表現を相互に関連付けて考える力 根拠となる事柄を過不足なく示し、考えたことを説明する力 		数学科	<ul style="list-style-type: none"> 表、式、グラフを相互に関連付けて理解する力 帰納と演繹の違いを理解し、証明の必要性と意味について理解する力 事柄が成り立つ理由や適している理由を説明したり、判断した根拠を説明したり、問題解決の方法を説明したりする数学的な表現力 証明を振り返って評価する力 評価に基づいて証明を改善する力
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象提示から問題を見いだす力 観察、実験の結果を予想や仮説と関係付けながら考察する力 学習したことを身の回りの生活の中の事象に適用しようとする力 		理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象提示から問題を見いだす力 観察、実験の結果を予想や仮説と関係付けながら考察する力 学習したことを身の回りの生活の中の事象に適用しようとする力
				英語科	<ul style="list-style-type: none"> 一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、書き手の伝えようとするを正確に読み取る力 対話文や物語文では、どのような登場人物がいるのか、主人公は誰か、話がどのように展開していくのかなど、大まかな流れをつかみながら読み取る力 説明文では、特に中心となる事柄など大切な部分を捉えて的確に読み取る力 読んだ後に感想や意見、賛否、また、その理由を示すことを念頭に置いて、話の内容や書き手の意見などを批判的に捉える力 英文を「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結び付けるために、単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していく力

③ 課題解決に必要な力の明確化

さらに、各教科部会では、研究委員の所属校における児童生徒の課題解決に必要な力をより詳細に明らかにするために、県調査の解答を収集したり、資料2のように、県調査を基に課題に特化した類似問題を作成して追加の調査を行ったりしました。

そして、資料3のように、それらの解答を基に解答類型等を作成し、誤答傾向や児童生徒の思考の流れなどを具体的に分析、考察しました。

実地調査、分析の例
実地調査、分析については、小学3年生を対象に行ったA校とB校の例を示します。
○実地調査問題例（平成26年度【県調査】12月調査）4年 1-(2)を改変）

1 学校のまわりの様子について、次の問いに答えます。
① 太郎さんは、地図記号を使って【地図B】を作りました。【地図A】のものになった地図としてあてはまるものを、あとのアからエまでの中から1つえらんで、その記号を書きましよう。また、その記号をえらんだ理由（わけ）も書きましよう。

【地図A】
【地図B】

ア イ ウ エ

○実地調査結果の分析例（小学3年生）
●設問の趣意
地図記号の知識を基に、実際の土地の様子に合った給地図を選択し、その選択理由を選択し記述することができる。

●正答するために必要な具体的な力（○：正答の要索、□：必要な具体的な力）
①【地図B】の橋の地図記号を見直し、川と道路の位置を正確に取る力
②道路と病院の地図記号を見直し、消防署と病院の位置を読み取る力
③選択肢アからエと比較し、川と道路の位置関係、消防署と病院の位置関係の違いに気付く、②の位置関係の違いを認識付けて、【地図B】に合った給地図を選び、選択する力
④給地図を選択した思考過程を説明する力

●学習指導要領における内容
【第3学年及び第4学年】
内容(1) 身近な地域
自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり自地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。
ア 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など
(内容の取扱い)内容(1)については、方位や地図記号について扱うものとする。
(解説)観察、調査した結果を地図に表したり地図を読み取る際に必要となる方位や主な地図記号を理解し活用できるようにすること。

●評価の観点 社会的な思考・判断・表現（活用問題）

●関連する問題（基になった問題）
平成26年度【県調査】12月調査）4年 1-(2)
十分達成 おおむね達成 準正答率 無解答率
75.0 65.0 69.1 0.50

●正答の条件
記号つと解答し、次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。
①川と橋（道路）の位置について適切な理由を記述しているもの
②病院と消防署の位置について適切な理由を記述しているもの

※選択した理由については、記述式で問題に付加して調査しています。

○B校での調査における解答類型及び考察例
●解答類型（正答率：○…本調査での正答、○…平成26年度【県調査】12月調査）では正答）

問題番号	解答類型	正答率
1	【正答の条件】 ウと解答し、次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①川と橋（道路）の位置について適切な理由を記述しているもの ②病院と消防署の位置について適切な理由を記述しているもの	16.4
2	ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの	9.1
3	ウと解答しているが、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの	5.4
4	ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置と病院と消防署の位置を記述していないもの	0.0
5	ウと解答しているが、理由が記述できなかったり明確でなかったりするもの	27.3
6	アと解答し、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの	5.5
7	イと解答し、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの	1.8
9	上記以外の解答	29.1
0	無解答	5.4

●B校での調査結果の考察
県調査の設問では、ウを選択できれば正答である。正答率は、解答類型1から5の反応率の合計69.3ポイントとなる。県調査の設問で設定された「十分達成」の基準が75.0、「おおむね達成」の基準が65.0であったことから課題があると考える。
「活用」に関する問題であることから、どのような知識や見方が「活用」されたのかを詳細に分析するために、実地調査の設問に「また、えらんだ理由（わけ）も書きましよう」を付加して調査を行った。
その解答について、設問の趣意に準ずる正答のために必要な具体的な力を基に、解答類型を作成し、解答の記述を整理した。その結果、【正答の条件】を全て満たした解答類型1の反応率は、16.4ポイントであったのに対して、【正答の条件】を全て満たすことができなかった解答類型2から5の反応率は、41.9ポイントであった。ウを選択することができていることから、児童は、【地図A】と【地図B】からそれぞれ比較した際に、共通点や相違点に気付くことができることを期待していると考えられる。しかし、複数の共通点を認識し、かつ異なる点も認識し、かつ異なる点を説明することに課題があると考えられる。
解答類型6や解答類型9の解答内容を見ると、病院と消防署の位置やその片方の位置に触れることはできたものの多い。また、解答類型7の解答内容からは、川と橋の位置、川と橋の位置について触れることができたものもあった。これらのことから、複数の資料から、1つの共通点を読み取ることはできても、複数の共通点を認識し、かつ異なる点も認識し、かつ異なる点を説明することに課題があると分かった。地図記号を単独の記号として記憶しており、地図から土地の様子を読み取るために「活用」させる手立てを授業に取り入れていく必要があると考える。
以上のことから、授業では、児童のそれぞれの見方や考え方や友達の見方や考え方を比較させ、共通点を探させたり、違いを見付けさせたり、どちらがよいかを考えさせたりする問い掛けや活動をとり入れていく必要があると考える。

資料2 追加の調査例（小学校社会）

資料3 解答類型を作成した具体的な分析、考察の例（小学校社会）

このようにして、課題解決に向けて必要な力について詳細に分析、考察することで、資料4のように、児童生徒の実態に応じた身に付けさせたい力として明確化しました。

各教科部会では、授業改善策の考案に向けて、それらをや資料5のように課題解決に向けた授業改善の柱や授業改善のポイントとして具体的に整理しました。

課題の解決に向けた授業改善の方向性

小学3年生では
【実践事例1】【実践事例2】
分かったことを関連付けて考えたり判断したりさせ、関連が分かるキーワードを用いた説明をさせるなどの手立てを取り入れて、表現力を育成する。
自分の考えをもたせたり、考えをまとめさせたりする問いを設定し、目的をもって地図や資料を読み取る経験を積ませる。その際、児童が問いについて考える時間を十分確保する。
児童が話したり、書いたりする活動の際に、児童の表現について、例を示したり、称賛したり、表現方法を考えさせたりする手立てを取り入れる。
児童のそれぞれの見方や考え方を、友達の見方や考え方と比較させ、共通点を探させたり、違いを見付けさせたり、どちらがよいかを考えさせたりする問い掛けや活動を取り入れる。

小学5年生では
【実践事例3】
資料を正しく読み取る活動において、児童の予想を基に情報を読み取らせ、児童が段階的に情報を関連付けて思考を深めていくことができるようにする。
児童の身近な立場から段階的に様々な立場に立たせることによって、社会的現象を多面的・多角的に見て考えることができるようにする。具体的には、視覚的に複数の視点や立場があることに気付かせる板書や発問を工夫する。

小学6年生では
【実践事例4】【実践事例5】【実践事例6】
調べて分かったことや考えたことを基に、社会的現象の意味を総合的に理解させる。
人物の業績や事象について調べた情報を整理し、総合的にその意味について考える学習を単元に位置付ける。
1つの資料から「分かること」と「考えられること」を区別させた読み取りの指導から、「どのような意味があるのか」や「なぜそのようなことをしたのか」を考えさせる指導、複数の資料を使う指導へと段階的にスモールステップの指導を行う。
単元を通して、複数の資料から分かることを使って、学習問題に対する考えを追究させることで、自分の考えを論述する力（表現力）を育成する。
グラフの見方の再確認と何を聞いているのかを児童に問い返す指導を取り入れる。
根拠を基に自分の考えを説明する力が付くようにする手立てを取り入れる。

※個別に取り入れた具体的な手立てについては、各実践事例の単元の指導計画に示しています。

資料4 明確化した児童生徒に必要な力の例（小学校社会）

授業改善の柱① 単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定

授業改善の柱② 生徒の思考に沿ったワークシートの工夫

学習課題の設定
指導事項
言語活動 思考操作
授業改善の柱①
単元を通して学習課題の解決をめざす言語活動
—「考えながら読む」授業の展開—
見通し
学習計画
学習のひき
モデル
授業改善の柱②
生徒の思考に沿ったワークシートの工夫
振り返り
学習課題を意図して単元の学習を振り返る。
指導事項や思考操作などを表す学習用紙を使って振り返りを書く。
観点に基づき自分の言葉で書く。

「読むことによって何を学得、どう活用するのかという意識をもち、本や文章などの内容や形態に応じて読むことができるようにする」(4)ことを意識して単元の学習計画を立てます。

資料5 整理した授業改善の柱や授業改善のポイントの例（中学校国語）

④ 授業改善策の考案

各教科部会において、具体的に見えた課題に応じた理論研究を重ね、表4に示す授業改善策を考案しました。ここでは、各教科部会が提案している授業改善策のポイントだけを掲載しています。具体的な授業改善策については、各教科部会のサイトを御覧ください。

表4 各教科部会が提案する授業改善策（授業改善のポイント）

校種	教科部会	授業改善策	校種	教科部会	授業改善策
小学校	国語科	授業改善に必要なアイデア <ul style="list-style-type: none"> ・児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくること ・単元を通して言語活動を位置付けて授業を行っていくこと ・自分の考えを広げたり深めたりさせる話し合いを授業に取り入れること ・学びを自覚させる振り返りを取り入れること 	中学校	国語科	授業改善の柱1 <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定 授業改善の柱2 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考に沿ったワークシートの工夫
	社会科	授業改善に向けて教師が意識する3つのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・児童が単元を通して考え、理解することを明確にする。 ・児童の主体的な学びになるようにする。 ・年間を通して、授業改善の基盤をつくるようにする。 授業に取り入れたい改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・単元に2つの学習問題を設定する。 ・教師の問いかけ、問い返しで考えさせる。 ・視覚化して考えさせる。 ・ノートやワークシートに考えたことを書かせる。 		社会科	授業改善に向けて大切にしたいこと <ul style="list-style-type: none"> ・学習につながりをもたせる単元づくり 授業改善のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に対する生徒の気付きや疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定すること ・社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること ・社会的事象について説明したり自分の考えを論述したりする際に、根拠と理由を述べさせること
	算数科	1時間の授業で大切にしたいこと <ul style="list-style-type: none"> ・「つかむ段階」で児童自身に本時のめあてをもたせるようにする。 ・「見通す段階」で見通しをもたせ過ぎたり、もたせなさ過ぎたりしないようにする。 ・「自力解決段階」で全員が問題を解決できなければならないと考えないようにする。 ・「学び合う段階」が単なる発表会にならないようにする。 ・「まとめる段階」が教師の一方的なまとめにならないようにする。 		数学科	数学的活動を充実させる指導のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを人に伝える活動・人の考えを理解する活動を充実させる。 ① 必ず成り立つことを数学的な表現を用いて考え、説明させる。 ② 他者の考えと自分の考えとを比較させる（人の考えの良い点を認識させる）。 ・発展的に考える活動を充実させる。 ① 条件を変えた課題に取り組ませる（数学的な見方や考え方を広げる）。 ② 学習した内容を、更に論理的に考察させる（数学的な見方や考え方を深める）。
	理科	科学的な思考力・表現力の育成の手立てのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・事象をどのようにとらえているか文字で書き表すこと ・他者と考えを交流すること ・結果と考察を書き分けること 		理科	科学的な思考力・表現力の育成の手立てのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・事象をどのようにとらえているか文字で書き表すこと ・他者と考えを交流すること ・結果と考察を書き分けること
			英語科	読みのプロセスを踏まえた言語活動 <ul style="list-style-type: none"> ・発問の3つのタイプ ・教科書本文の類型と対応する推論発問 ・読みのプロセスを踏まえた発問構成 ・発問を軸とした単元構想 	

⑤ 授業改善策を取り入れた授業実践

研究委員が担当する学年の児童生徒に見られる課題に応じて、各教科部会が提案する授業改善策を具体的な手立てとして工夫し、授業実践を行い、その効果を検証しました。各教科部会のサイトには、表5及び表6の内容で全50本の実践事例を掲載しています。そのうち、★のついた実践事例38本については、公開授業研究会として一単位時間を県内の教職員を対象に公開し、授業改善策を提案するとともに、授業研究会を通して、本研究についてより多くの意見を求め、妥当性を協議し、研究の質を高めていきました。

表5 各教科部会が行った検証授業（★は公開授業研究会を行った実践）

校種	教科部会	検証授業の内容	校種	教科部会	検証授業の内容
小学校	国語科	<p>実践事例1（第4学年） 単元名「筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう」 教材「アップとルーズで伝える」</p> <p>実践事例2（第5学年） 単元名「伝記を読んで『すごい』を伝えよう」 教材「手塚治虫」</p> <p>実践事例3（第5学年）★ 単元名「伝記を読んで、自分の生き方について考え、『5の1人物事典』をつくろう」 教材「百年後のふるさとを守る」</p> <p>実践事例4（第6学年）★ 単元名「要旨を捉え、鹿島の未来をえがいたプレゼンテーションをしよう」 教材「町の幸福論-コミュニティデザインを考える」</p>	国語科	<p>実践事例1（第1学年） 単元名「描写に着目して読み、作品の見どころを推薦するポップを作ろう」 教材「そこに僕はいた」</p> <p>実践事例2（第2学年） 単元名「カメレオンはだれだ？-人物像に着目して読もう-」 教材「カメレオン」</p> <p>実践事例3（第3学年）★ 単元名「論証の強さを評価しよう-目指せ！名探偵！」 教材「作られた『物語』を超えて」</p> <p>実践事例4（第2学年）★ 単元名「投書で自分の思いを伝えよう-受け継がれる佐賀の伝統-」 教材「白川郷-受け継がれる合掌造り」</p> <p>実践事例5（第3学年） 単元名「哲学的思考ルーティンを使って、『考えること』を楽しもう」 教材「哲学的思考のすすめ」</p>	
	社会科	<p>実践事例1（第3学年）★ 単元名「はたらく人とわたしたちのくらし-わたしたちのAAマーケットについて考えよう-」</p> <p>実践事例2（第3学年）★ 単元名「はたらく人とわたしたちのくらし-店ではたらく人-」</p> <p>実践事例3（第5学年）★ 単元名「これからの食料生産とわたしたち」</p> <p>実践事例4（第6学年）★ 単元名「町人の文化と新しい学問」</p> <p>実践事例5（第6学年）★ 単元名「明治の国づくりを進めた人々」</p> <p>実践事例6（第6学年）★ 単元名「新しい日本、平和な日本へ」</p>	中学校	<p>実践事例1（第1学年）★ 単元名「世界の諸地域-オセアニア州-」</p> <p>実践事例2（第3学年）★ 単元名「現代社会の見方や考え方」</p> <p>実践事例3（第1学年）★ 単元名「武家政権の成長と東アジア-武士の世の始まり」</p> <p>実践事例4（第1学年）★ 単元名「世界の諸地域-北アメリカ州-」</p> <p>実践事例5（第2学年）★ 単元名「近代国家の歩みと国際社会-新しい価値観のもとで-」</p> <p>実践事例6（第3学年）★ 単元名「人間の尊重と日本国憲法」</p>	
	算数科	<p>実践事例1（第1学年） 単元名「3つのかずのけいさん」</p> <p>実践事例2（第6学年） 単元名「速さの表し方を考えよう」</p> <p>実践事例3（第3学年） 単元名「あまりのあるわり算」</p> <p>実践事例4（第4学年）★ 単元名「小数×整数 小数÷整数」</p> <p>実践事例5（第5学年）★ 単元名「単位量あたりの大きさ」</p>	数学科	<p>実践事例1（第1学年） 単元名「変化と対応」比例のグラフ</p> <p>実践事例2（第1学年）★ 単元名「変化と対応」反比例のグラフ</p> <p>実践事例3（第2学年） 単元名「図形の調べ方」証明とそのしくみ</p> <p>実践事例4（第2学年）★ 単元名「図形の調べ方」証明のすすめ方</p>	
			英語科	<p>実践事例1（第1学年）★ PROGRAM 7 The Wonderful Ocean</p> <p>実践事例2（第3学年）★ Lesson 4 Speech - A Man's Life in Bhutan</p> <p>実践事例3（第1学年） Unit 7 サンフランシスコの学校</p> <p>実践事例4（第3学年） Lesson 5 Stevie Wonder - The Power of Music</p>	

表6 小・中学校理科部会（理科力向上サポート事業）が行った検証授業（★は公開授業研究会を行った実践）

校種	教科部会	検証授業の内容	校種	教科部会	検証授業の内容
小学校	理科	実践事例1（第3学年）★ 単元名「じしゃくのふしぎを調べよう」	中学校	理科	実践事例1（第1学年）★ 単元名「光の性質」
		実践事例2（第4学年）★ 単元名「すがたをかえる水」			実践事例2（第1学年）★ 単元名「音の性質」
		実践事例3（第5学年）★ 単元名「もののとけかた」			実践事例3（第1学年）★ 単元名「光の性質」
		実践事例4（第6学年）★ 単元名「水よう液の性質」			実践事例4（第1学年）★ 単元名「力と圧力」
		実践事例5（第6学年）★ 単元名「てこのはたらき」			実践事例5（第3学年）★ 単元名「酸・アルカリとイオン」
		実践事例6（第4学年）★ 単元名「ものあたまりかた」			実践事例6（第1学年）★ 単元名「大地の変化」
		実践事例7（第5学年）★ 単元名「もののとけ方」			実践事例7（第2学年）★ 単元名「気象のしくみと天気の変化」
		実践事例8（第5学年）★ 単元名「ふりこの動き」			実践事例8（第3学年）★ 単元名「化学変化とイオン」

平成27・28年度において38本の公開授業研究会を開催し、のべ400名以上の県内の参観者に授業改善策を提案し、協議することができました。

⑥ 授業実践のまとめ・考察

また、【実践事例4】は、学習指導要領の内容(1)のカを受けて、調べたことから「社会が安定するにつれて、町人文化や、蘭学や国学といった新しい学問が生まれたこと、それらに関わる人物の働きが理解できるようにする」ことを考えて分ける社会の内容に設定していました。そこで、学習問題Ⅰ「江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか」をまとめる第5時と学習問題Ⅱ「江戸時代を代表する文化や学問を考えよう」について討論を行った第6時の振り返りのワークシートの記述を基に考察します。

表2 児童のワークシートの記述の分析結果 n=34

記述内容	割合
3	14.7%
2	5.9%
1	5.9%
0	2.9%
評価	○

総合的に考える力については、第5時のまとめの記述の中に、江戸時代の文化、蘭学、国学のそれぞれ特徴についての記述がいくつ含まれているかで判断しました。また、多面的に考える力については、第6時の振り返りの記述の中に、江戸時代の文化や学問の特徴について3つの分野を比較したことを自分の言葉で書くことができたかどうかで判断しました。

以上の判断する目安を基に、児童のワークシートの記述を分析してみると、表2のようになりました。

第5時の学習問題「江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか。」のまとめにおいて、授業で取り上げた3つの分野の特徴について、資料2のように全て記述できた児童は、資料3【実践事例4】B児の5時目のワークシートの記述で示す範囲で全体の64.7%でした。そのうち、第6時において、資料3のように比較したことと自分の言葉で記述できた児童は50.0%にとどまりました。しかし、授業前に実施した県調査を基に作成した実態調査と比較すると、同様に考える設問「奈良時代や平安時代の貴族や庶民の食事を比較し、資料を基に貴族の食生活の特徴を説明する問題」の正答の反応率が12.1ポイントであったことから、37.9ポイントの伸びが見られ、多面的、総合的に考える力が付いてきていることがうかがえます。これらのことから、もっている知識や調べてわかったことを根拠として、社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力は、1単元での伸びは小さいですが、本研究委員会が提案する授業改善策を継続的に取り入れていくことで高まることが期待できると考えます。

資料6 ワークシートの記述を分析した例（小学校社会）

評価による学習の振り返り

授業後の定期テストにおいて、本単元で学習した文章の論証の強さについて評価する問題を出し、その結果を表1に示すように4月の県調査と比較し分析しました。

【出題の趣旨】
新聞の投書の文章を読んで「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分け、論証の強さについて論じることができるかどうかをみる。

【評価の目的】 ※【 】は、授業改善を通して育成する能力
① 筆者の論証を「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分けることができる。
【表現に着目して文章を読み、文章に書かれた内容を理解する力】
② 「事実」「主張」「論拠」「裏付け」を基に根拠を明確にして論証の強さについて述べている。
【書かれていることを根拠に自分の考えをもつ力】

上記の①、②について17点満点で採点しました。県調査における期待正答率の考え方に基づいて次のように到達基準を設定しました。

表1 県調査と単元実施後の定期テストとの結果の比較

評価	単元実施前の県調査(4月)	単元実施後の定期テスト(11月)
A	40.7%	52.6%
B	33.8%	28.8%
C	18.6%	25.5%

到達基準の設定：十分達成…60.0、おおむね達成…40.0
 ○評価：A…十分達成の到達基準以上
 B…おおむね達成の到達基準以上、十分達成の到達基準未満
 C…おおむね達成の到達基準未満

単元実施後の定期テストの結果から、少なくとも評価の目安①を満たす、「おおむね達成」の到達基準を上回ったB評価以上の生徒は81.4%でしたが、評価の目安①と②の両方を満たしている、「十分達成」の到達基準を上回ったA評価の生徒は、52.6%にとどまりました。このことから、筆者の論証を「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分けることができている、本単元を通して、「表現に着目して文章を読み、文章に書かれた内容を理解する力」は付いてきていることがうかがえます。

一方で、根拠を明確にして論証の強さについて述べることは課題が残ったと考えます。しかし、同様の力を問う4月の県調査の結果と比較すると、A評価は11.9ポイントの伸びが見られ、C評価は6.9ポイント減っています。これらのことから、「書かれていることを根拠に自分の考えをもつ力」も付いてきていることがうかがえます。

これらの結果から、本単元において少しづつではありますが授業改善を通して育成する能力の伸びが確認できました。更なる育成を図るためには、系統的かつ継続的な指導を行っていく必要があると考えます。

資料7 検証授業の前後の調査を比較した例（中学校国語）

授業改善策を取り入れた授業実践が、学習状況調査の結果に見られる課題の解決に効果があったかどうかを確かめるために、研究委員が行った授業実践について考察しました。それぞれの教科部会が整理した課題に応じて児童生徒に身に付けさせたい力（課題の解決に向けて必要な力）が付いてきたのかを視点にして、資料6のように児童生徒の授業の様子（発言内容やワークシートの記述内容）を分析したり、資料7のように検証授業の前後に取った意識調査や評価テスト、実態調査と授業実践後に行われた県調査の結果による調査とを比較したりして力の付き具合や伸び具合を考察しています。

⑦ 授業改善策の修正・提案

各教科部会のサイトには、平成27・28年度に「① 県調査の分析」から「⑥ 授業実践のまとめ・考察」までの流れを、2回通して研究した成果をまとめて提案しています。授業改善策を取り入れた検証授業の様子やその検証結果、単元の指導計画や授業展開案、ワークシート、教材等を掲載しています。ぜひ、御活用ください。

引用文献

- (1) 佐賀県教育庁教育政策課 『学力向上だより“継続と徹底”第23号』 平成29年2月
http://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji00346445/3_46445_37047_up_3gnizg22.pdf
- (2) 佐賀県教育センター 『佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書』
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/index.html

参考文献

- ・佐賀県教育委員会 『平成28年度佐賀県教育施策実施計画』 平成28年4月
http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00346905/3_46905_1_h28kyouikuisakujissikeikaku.pdf
- ・佐賀県教育委員会 『平成27年度佐賀県教育の基本方針（改訂版）』 平成27年9月
http://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji00332454/3_32454_1_h27kaitei.pdf
- ・佐賀県教育庁教育政策課 『学力向上だより“継続と徹底”第23号』 平成29年2月
http://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji00346445/3_46445_37047_up_3gnizg22.pdf
- ・佐賀県教育庁教育政策課 『学力向上だより“継続と徹底”第24号』 平成29年3月
http://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji00346445/3_46445_40613_up_hru5wuj8.pdf
- ・佐賀県教育センター 『佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書』
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/index.html